

私たちは緊急出動ゼロを目指しています！

丁寧な・熱心な作業で貢献します！

## デスポーザー排水処理システムは、生ごみを無くしCO2削減効果が大いなのですが・・・。 こんなに汚泥を貯めては、Co2削減効果は逆にマイナスですね？

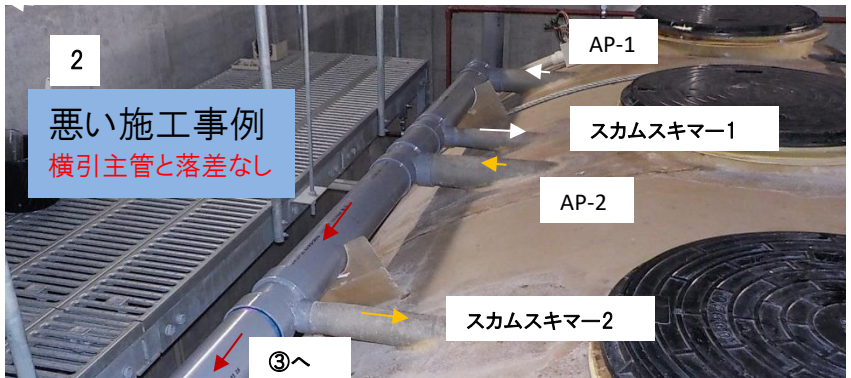


3、下の写真は、エアリフトポンプUP汚泥が、スカムスキマー1、2に戻らないように是正を致しました。その結果、沈殿槽汚泥の堆積はゼロとなり本来の沈殿槽を取り戻し正常な処理槽となりました。



1、当該施設は使用開始1年後、汚泥処分の問い合わせからメンテナンスの委託を受けることとなりました。

左の写真は、デスポーザー排水処理槽の沈殿槽です。槽内は汚泥貯留槽と見間違えるほどの汚泥堆積量です。なぜ、このようなことになったのか、下の写真を見れば理解できます。



2、AP1・エアリフトポンプを稼働すれば③無機分離槽に流れるはずですが、配管勾配が少ないためにスカムスキマー1へ流れ、その結果、沈殿槽に汚泥が堆積していました。AP2も同様にスカムスキマー2へ戻り、③へはほとんど流れないことが、1年間続いていた。

メーカーメンテナンス担当者も気づかず？ 汚泥を貯め込んだ点検を継続していました？ その結果、沈殿槽が汚泥貯留槽に変化しました。

Co2削減を目的に誕生したのが、デスポーザー排水処理システムです。時折、原点に立ち返り、Co2削減を思い起こしたいものです。処理槽の機能を「生かすも殺すも」メンテナンス次第です。点検担当者は、処理槽の欠点を補足することも重要な責務です。



### 4の写真

正常な汚泥返送配管です！  
横引き主管と落差あり

## 水物語 No83

世界遺産「美しい五箇山合掌集落」は微生物で塩硝を製造！！



油脂ゼロポンプ槽・推進中！！

DSPハイブリッドシステム推進中！

株式会社クリーンテックサービス東京



藩政時代、五箇山の合掌造りの集落では、黒色火薬の原料である塩硝を秘密裏に製造していました。五箇山と白川郷の塩硝は、日本一とされ加賀藩の直轄で、300年も続けられたそうです。人里はなれた五箇山は塩硝密造に最も適した場所だったのでしょうか。

この塩硝づくりは、山村の生活廃棄物（蚕の糞や人糞）とその発酵の力をうまく利用したものです。正に堆肥づくりの応用です。堆肥づくりの中に「化学」を見出し、塩硝づくりの手法を完成させた先人の知恵は、現代の循環型社会の先を行くもので大いに勉強させられます。

蚕の糸は、絹糸となり織物に仕立てられ、その糞は塩硝づくりに利用されます。養蚕・合掌造りの五箇山ならではの、一石二鳥の賢い生き方です。